

北陸 経済研究

6

June
2026 no.543
ISSN 0386-8583

新春講演会

前駐ウクライナ特命全権大使 松田 邦紀氏
ウクライナ戦争～世界と日本にとっての意味～

自主調査

新入社員意識調査(北陸企業)の結果から(2026年度)

寄稿

企業経営力を高める女性活躍のあり方
～本質的なダイバーシティ・マネジメントに向けて～

誌上セミナー

松下幸之助の実践に学ぶ
第5回 人をつくること

企業紹介

株式会社 日本オープンシステムズ

北陸歴史探訪

第18回 加賀篠原合戦と平氏軍の大敗

【福井三味線】

女性的とも評されるしなやかなフォルムを特徴とし、
楽器でありながら工芸品としての美しさも備える。



匠の技で伝統の音を守り継ぐ

福井三味線(福井県指定郷土工芸品) × 伊与和楽器店 伊与智基 [福井県福井市]

日本を代表する弦楽器であり、伝統的な邦楽には欠かせない三味線。江戸時代には爆発的な人気を博し、複雑な響きや揺らぎを特徴とする音色は、不均衡の中に美を見いだす日本人の感性に響くものとして愛されてきました。しかし、洋楽器の普及とともに一般の愛好者は少なくなり、三味線を手がける事業者は全国で相次いで廃業しています。そのような中、福井で今も伝統を守り続けているのが伊与和楽器店です。三代目である伊与智基さんは、地歌や長唄に親しみ、東京の和楽器店で三味線づくりを学んだのち、全国各地の職人の技を自らの目と耳で確かめ、優れた点を取り入れながら研鑽を重ねてきました。その卓越した技術は評判を呼び、全国のプロ奏者から高い信頼を得ています。2016年には、伊与さんの尽力により福井三味線が福井県指定郷土工芸品に指定されました。第一線で活躍するプロ奏者による教室を店内で開催するなど、普及に向けた取り組みも積極的に進めています。



三味線は、天神・棹・胴の三部位で構成される。
奥に並んでいるのは、天神・棹・中子(胴を貫く木)の部材。



三味線の音を決める、胴に張られた動物(猫)の皮。
破れる寸前まで強く張ることで、豊かな響きが生まれる。



●(左から)糸巻・撥・指すり
象牙製の糸巻と撥は、入手が難しい希少な品。



●駒
皮の上に配置され、糸の振動を皮へと伝える重要な部品。



●胴掛
胴に装着され、三味線を華やかに彩り、滑り止めの役割も果たす。



音の響きを確かめながら、手作業による緻密な微調整を重ねて仕上げられる。



三代目 伊与 智基

福井県福井市中央3丁目12-27
TEL: 0776-22-5644
Mail: iyo-wagakki@air.ocn.ne.jp

伊与和楽器店

創業 1951 (昭和26) 年頃
主な事業 三味線と箏(こと)の製造・販売・修理
概要 創業当時は和楽器の販売を中心としており、二代目が箏と三味線の製作を始めた。三代目は、東京で修業を積んだのち、独自に至高の音を探求し続けてきた。東京や大阪のプロ奏者を主な顧客とし、歌舞伎座の公演やNHKの番組といった格式ある場で使用される三味線を手がけてもいる。